
日付： 2004年 7月22日
提出元： アッカネットワークス
題名： スペクトル適合性計算モデル、計算条件に関する検討課題
課題表対応 C1.1、C4、C5.3、C6及びC7

前書き

本寄書は、保護判定基準値に対するスペクトル適合性計算モデル、計算条件に関する検討課題を整理したものである。

その中下記2項については、予備検証する作業グループを設けることを提案する。

- マルチゲージの影響の検証（シミュレーション）
- ブリッジタップの影響などを検証（シミュレーション）

また、G.996.1をベースにした検証（シミュレーション）条件を提案する。

1. DSLスペクトル管理の要件、JJ100.01で将来課題となっている事項

- (ア) マルチゲージの影響の検証（シミュレーション）
- (イ) 換算線路長5 km（注）を超えるシステムの評価
 - （注）ケーブル損失のみ。BTの影響や局内損失などは含まない。
- (ウ) 1.1 MHzを超える周波数帯域を使用するシステムの扱い
- (エ) RTの扱い

2. JJ100.01（第2版）の条件を見直す事項

- (ア) ブリッジタップの影響などを検証（シミュレーション）
- (イ) 干渉源の数量、組み合わせ
 - 換算線路長2.7 kmを超えるISDNの扱いを含む。
- (ウ) 漏話減衰量の危険率
- (エ) ローディングビット数
- (オ) 線路長（損失）の定義および各式の整合性

3. 検証（シミュレーション）条件

3.1 マルチゲージの影響の検証（シミュレーション）条件

(ア) 通常（電話重畳）のシステムの場合

Figure 11 / G.996.1のLoop TCM#3と同モデル。

Xを変数とし（0～2.0 km：0.25 kmステップ）、受信信号レベル（CO～CPE間の動作減衰量）を求める。



(イ) 長遠化システムの場合

Figure 11 / G.996.1のLoop TCM#1の0.65 mmケーブル線種をポリエチレン絶縁ケーブルに変更したモデル。

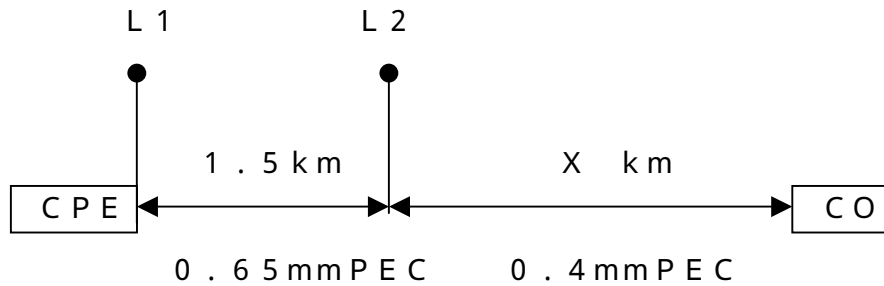
Xを変数とし（0～2.0 km：0.25 kmステップ）、受信信号レベル（CO～CPE間の動作減衰量）を求める。



3.2 BTの影響の検証(シミュレーション)条件

Figure 11 / G.996.1のLoop TCM#2の0.4mmケーブル線種をポリエチレン絶縁ケーブルに変更したモデルをベースとする。

Xを変数とし(0 ~ 2.5 km : 0.25 kmステップ)、受信信号レベル(CO ~ CPE間の動作減衰量)を求める。



L1、L2の長さ

組み合わせ	L1 [m]	L2 [m]
BTなし	0	0
#1	100	100
#2 (仕様SWGモデル)	300	0
#3 (DSU試験モデル)	300	300
#4	500	500
#5	100	300
#6	100	500
#7	300	500
#8	300	100
#9	500	100
#10	500	300

(注) DSU試験モデルでは、二つのBT間の距離に関する規定はない。

課題表修正案

4.7.1	オープン	<p>マルチゲージモデルを導入するか？ (例 1) 0.32mm + 0.4mm (例 2) 0.65mm + 0.9mm</p> <p><u>予備検証する作業グループを設ける。</u></p>	<p>SMS-09-09 SMS-09-10 SMS-09-12 SMS-09-13 SMS-10-11 SMS-10-12 SMS-10-13 SMS-10-15 SMS-10-17 SMS-10-18 SMS-10-19 SMS-10-21 SMS-11-11 SMS-11-13 SMS-13-07</p>
4.7.2	オープン	<p>BT 付線路モデルを導入するか？</p> <p><u>予備検証する作業グループを設ける。</u></p>	<p>SMS-13-07</p>

以上